

記事を比較 視点学ぶ 花巻市・宮野目中

花巻市の宮野目中（渡辺康二校長、生徒168人）の3年生は、複数の新聞社の記事を読み比べる国語の授業を受けた。書き手が記事に込めた意図の違いを捉え、報道文を基に意見形成する際に注意すべきことを学習。一つの情報をうのみにせず、さまざまな視点や反対意見も踏まえて自分の考えを持つ重要性を学んだ。

授業は今月中旬、渡辺校長が実施。「報道文との関わり方」の単元2時間で取り組み、プラス日報も活用して記事を読んだ。

1こま目で取り上げたのは、佐々木朗希投手（ドジャース）が先発した試合結

果を伝えた岩手日報とスポーツ紙の記事。教科書の内容も踏まえて記事と比較し、報道文は記者の見方や考え方によって内容が異なることを学んだ。

2こま目では、滝沢市の全中学校で2025年度からプールを使った水泳授業を取りやめることを報じた記事を使用した。

生徒は、書きぶりが異なる岩手日報、読売新聞、東京新聞の三つを読み比べ「水難事故防止の観点から、プールの老朽化の課題もあり、無理して行う必要はないと思う」などそれぞれの意見を発表した。



複数の新聞記事を読み比べ、クラスメートと意見交流する宮野目中の3年生

齊藤聖さんは「報道文を読む際は一つの見方にとらわれず、さまざまな人の意見を尊重しながら自分の考えを持ちたい」と学びを深めた。



学習指導案はこちら

学習旅行 把握し整理 大槌学園

大槌学園（安部広一学園長、児童生徒533人）の6年生は、学習旅行の事前事後学習にプラス日報を取り入れた。訪問場所に関する記事を読んだ上で現地を訪れ、学びの成果を

個人新聞にまとめた。学習旅行は6月中旬に行った。事前の取り組みとして、子どもたちは訪問する震災遺構・荒浜小（仙台市）や中尊寺（平泉町）などについて報



学習旅行の成果を「クミハン」でまとめる大槌学園6年の児童

じた記事を「調べる」で検索し、概要を把握。岩手日報社員からインタビューやメモのこつも聞き、当日の活動に役立てた。

旅行のまとめは、新聞製作ソフト「クミハン」で行った。自分たちが見聞きした内容について伝えたいことを整理。それぞれメモを見返しながら、2本の記事にまとめた。藤原あかりさんは「学習旅行を通して学んだことや感じたことを、周りの人にも分かりやすく伝えたい」と取り組んだ。

6年担任の佐々木敬祐教諭は「『クミハン』を使うと、文章の書き直しや、見出しなどの修正も簡単にできる。書くことへの苦手意識をなくし『まず書いてみよう』と思えるよう、今後の学習にも活用していきたい」と見据える。

